

令和元年11月11日(月)
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

記者発表資料

第10回 技術交流会の開催について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、港湾空港分野の技術力をより高める取り組みとして、港湾空港技術研究所、並びに民間の方々から様々な新しい技術を7件発表いただき、参加者との意見交換を行う技術交流会を開催します。

記

1. 日時

令和元年12月6日(金) 14時00分～17時50分
(受付13時30分より)

2. 場所

横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ
(神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4)

3. プログラム及び発表テーマ

別紙のとおり

4. 参加申し込み

技術交流会の参加には事前に申し込みが必要です。11月29日(金)までに横浜港湾空港技術調査事務所ホームページより申し込み下さい。

アドレス：<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

なお会場の都合上、参加者は先着50名とします。

※取材を希望される場合は、12月4日(水)17時までに担当者までご連絡をお願い致します。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ

問い合わせ先

所属 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
担当 調査課長 遠藤 正洋(えんどう まさひろ)
電話 045-461-3893

第10回 技術交流会プログラム

日時 令和元年12月6日（金） 14:00～17:50

場所 横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ 1F

プログラム

No.	時 間		テーマ	発表者
	14:00	- 14:10	開会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 所長 野口 孝俊
1	14:10	- 14:40	海洋環境中のマイクロプラスチックの分析技術	三洋テクノマリン株式会社 大宮環境分析センター 塩谷 剛
2	14:40	- 15:10	無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法 「RTワンガードクリア工法」 (NETIS登録番号:CG-190009-A)	株式会社ダイフレックス TM推進グループ 土木補修材チーム 堀江 一志
3	15:10	- 15:40	吸い出し・陥没リスク抑制と港湾構造物の長寿命化に向けたケーソン目地透過波低減法（ネットバッファ工法）	前田工織株式会社 河川・港湾課 石坂 修
	15:40	- 15:50	休憩 1回目 (10分間)	
4	15:50	- 16:20	3種ケレン対応型、高耐久・省工程塗替えシステム 「ラストマスチックシステム」のご案内 (NETIS登録番号:KTK-190003-A)	ジャパンカーボライン株式会社 東京営業部 高田 裕久
5	16:20	- 16:50	GMS3(三次元地中レーダ探査モバイルマッピングシステム) (NETIS登録番号:KT-170087-A)	日本インフラ空間情報技術協会 奥平 透
6	16:50	- 17:20	高耐久ポリマー改質アスファルトにより舗装の長寿命化を図る「HSアスコン舗装」 (NETIS登録番号:KTK-190001-A)	東亜道路工業株式会社 技術研究所 園田 涼
7	17:20	- 17:45	2017～2019年の高潮・高波被害とその調査法について	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 耐波研究グループ長 鈴木 高二朗
	17:45	- 17:50	閉会挨拶	横浜港湾空港技術調査事務所 副所長 中川 大

第10回 技術交流会発表テーマ一覧

番号	テーマ	概要	発表者
1	海洋環境中のマイクロプラスチックの分析技術	河川を通じて、あるいは直接海に排出されたプラスチックごみは、環境問題として近年国際的な問題に発展している。さらにこれらプラスチックごみが紫外線や波の力、温度変化等によって微細化してマイクロプラスチック(5mm以下の粒子)が生成され、生態系への影響も懸念されている。海洋プラスチック問題に関する国内動向と、マイクロプラスチックのサンプリング手法や赤外分光法を用いた分析技術について紹介する。	三洋テクノマリン株式会社 大宮環境分析センター 塩谷 剛
2	無繊維透明樹脂型コンクリート表面保護・はく落防止工法 「RTワンガードクリア工法」 (NETIS登録番号：CG-190009-A)	「RTワンガードクリア工法」は、塗るだけで、中性化・塩害による劣化を防止するコンクリート表面保護と、はく落防止対策ができる透明な表面被覆工法である。施工後、躯体コンクリートの劣化状況が目視にて確認できるため、点検・管理が容易になる。繊維シート貼り付けが不要のため、挟滲部、曲面等の複雑な形状への施工も容易です。全塗材が1液タイプのため、計量・攪拌作業が不要でヒューマンエラーがない。工程はシンプルな2工程で、最短1日で施工が完了し、工期の短縮も図れる。	株式会社ダイフレックス TM推進グループ 土木補修材チーム 堀江 一志
3	吸い出し・陥没リスク抑制と港湾構造物の長寿命化に向けたケーソン目地透過低減法(ネットバッファ工法)	繊維製網状の緩衝材をケーソン間目地部に挿入することで、透過波力を約80%減衰することが確認された。外力が低減できることで長寿命化が図れ、陥没リスクの抑制が可能。防砂板損傷による陥没発生後の機能復旧に際して、背後地からの防砂板取換と比較すると、大量な土砂移動を伴う大規模な工事が不要で、ケーソン上部からの陸上施工でケーソン高さ範囲で効果があり、コスト・工期ともに縮減が可能である。繰り返し陥没が発生していた本手法適用箇所は18ヶ月間背後地に変状が無く、陥没の再発生の抑止が確認されている。	前田工織株式会社 河川・港湾課 石坂 修
4	3種ケレン対応型、高耐久・省工程塗替えシステム「ラストマチックシステム」のご案内 (NETIS登録番号：KTK-190003-A)	ラストマチックシステムは、3種ケレン対応型、高耐久・省工程塗替えシステムになります。鋼道路橋塗装便覧のRc-Iの塗装仕様と比較して、1種ケレンが3種ケレンに変更が出来、また5回塗りが4回塗りで同等レベルの耐久性が期待出来る。「ラストマチックシステム」は特殊浸透性成分を含有した3種類の塗料の塗り重ねによる、「トリプル浸透効果」により、錆び層を強力に封じ込める事が可能。	ジャパンカーボライン株式会社 東京営業部 高田 裕久
5	GMS3(三次元地中レーダ探査モバイルマッピングシステム) (NETIS登録番号：KT-170087-A)	GMS3(三次元地中レーダ探査モバイルマッピングシステム)の紹介する。GMS3では、三次元地中レーダを用いて地中情報、モバイルマッピングシステムを用いて地上情報の取得を行う。本発表では、三次元地中レーダ及びモバイルマッピングシステムの詳細と、それらの技術により取得した情報を一元管理するまでの流れについて説明する。	日本インフラ空間情報技術協会 奥平 透
6	高耐久ポリマー改質アスファルトにより舗装の長寿命化を図る「HSアスコン舗装」 (NETIS登録番号：KTK-190001-A)	本技術は、剛性のある特殊な熱可塑性樹脂を添加した高耐久ポリマー改質アスファルトを使用するアスファルト舗装である。重荷重の作用する箇所における舗装は、コンクリート舗装や半たわみ性舗装で対応していましたが、HSアスコン舗装は半たわみ性舗装に匹敵する性能がありながら、経済性の向上と施工時間の大幅な短縮を図ることが可能な技術だ。	東亜道路工業株式会社 技術研究所 園田 涼
7	2017～2019年の高潮・高波被害とその調査法について	2019年の台風15号、19号による横浜地域の護岸の被災、浸水状況について述べるとともに、今回の被災の一要因であるパラベツ後退型護岸での衝撃砕波力の発生メカニズムを数値計算結果から説明する。また、台風1721号、台風1821号、台風1915号、台風1919号の後に実施したドローンを用いた浸水調査について述べる。	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 耐波研究グループ長 鈴木 高二朗